

四季報 春号

第二百二十九号 (No.129)

芹沢文学研究会・会報

令和6(2024)年4月29日(月)刊行

◎芹沢光治良記念文化財団 最新情報

事務局より報告

『ブルジョア・結核患者』刊行記念のポストカードを作成

今後の財団の行事予定

- ①「朗読劇」 3月頃 場所: サロン・マグノリア
- ②「光治良忌」 3月頃 場所: 沼津市市営墓地
- ③「光治良ノート(4)ブルジョア」 5月発行

令和6年は、全国都道府県に「小さな芹沢文学読書会」の種を蒔いていきたいと考えています。会員の皆様、ご協力のほどよろしくお願ひいたします。お知り合いの方に会員になっていただくようにお誘いください。

☆沼津市芹沢光治良記念館 沼津市制100周年記念

企画展「沼津ゆかりの文学者たち」第2回は、12月15日(金)～5月31日

(金)で開催されています。開館時間 9:00～16:00 休館日 月曜日、休日の翌日、年末年始

3月9日(土) 1時30分 「光治良忌」の後に、芹沢光治良記念館の企画展

「沼津ゆかりの文学者たち」の展示説明(予約不要 参加費無料。記念館の入館料

は必要)を副主任剣持直樹氏が行ったようです。

◎芹沢光治良文学愛好会の会報 通信 No.533

芹沢光治良文学愛好会の例会が、東中野区民活動センターの洋室4(2階)で

行われています。第533回は、4月28日(日)に行われました。少年小説「新しき學

校」(昭和22年1月 大日本雄辯會談社)をテキストにして、芹沢耕太郎氏が司会しました。

今回の会報の同封資料は、(1)テキスト『新しい學校』(母子版 講義録) (2)「芹澤光治良における神」 青山学院大学文学部教授寺園司、(3)「おたすけに生きた女性下」 文松山常教、(4)芹沢光治良自伝「わが青春15 芸者の洗礼は」(免)「静岡新聞 昭和60年(1985)年2月23日(土)」、(5)講演会チラシ7月14日「芹沢光治良文学と宗教2世」 Adam Lyons、(6)新聞記事「一枚(東京新聞・沼津朝日)。(7)総会資料・会則、(8)年会費振り込み票」でした。

◎芹沢文学愛読者の会 短信 第232号 3月30日

安井正二・恵美子夫妻のお世話で発行されている「芹沢文学愛読者短信」第232号が届きました。毎月1月に行ってきた新年会を6月9日(日)に「芹沢文学愛読者の集い」として行うとの案内。申込みはがき。芹沢光治良 自伝抄「捨て犬か雑草のよう」の第5回「不文律破り中学へ」が手書きで短信に収録されていました。

▽沼津芹沢光治良文学愛好会 「光治良忌」 3月9日(土) 10:30～11:30

沼津芹沢光治良文学愛好会の主催で、今年の「光治良忌」(命日は3月23日)が、3月9日(土)に沼津市営墓地の芹沢光治良先生墓前で開催されたようです。

墓参献花が午前10時30分から11時30分に自由に行われました。明るく温かな晩春であったとか。今年は、芹沢光治良先生が逝去されて30年でした。来年は大正14(1925)年に芹沢先生御夫妻がバりに留学されて100年の記念すべき年になります。

◎札幌・芹沢文学読書会 毎月一回(火曜日) 11時～13時

札幌・芹沢文学読書会が、札幌国際ユースホステルを会場に行われているようです。4月より、晩年の連作『人間の意志』をテキストにして読書会が持たれるとのこと。連絡先の電話は☎011(381)7531 加藤さんへ。

◎同封資料①ヨシム「文者のふる里」沼津と不破久温沼津朝日 令和6年3月6日 ②地域の報「沼津ゆかりの文者紹介」東海朝日 令和6年3月9日 ③「洋上の虹 芹沢光治良」ロマンズ 昭和24年1月 ロマンズ社発行（資料提供 中村輝子）
 ◎文学誌編 連載「芹沢文学講話」⑩「最期の遺稿」⑪「天の書」の制作 ⑫大泉の三部作 ⑬ 芹沢文学研究会代表 小串信正

連載 会員優待 No.85 第三回目の会員の会員優待として連載

神シリーズは芹沢先生の実体験

福岡県福津市 田中健一

研究会の会員でも神シリーズで書かれていることを現実派・フィクション派と捉えている方に別れるそうです。先に88号私の体験を記述しましたが、更に私の持論を述べます。芹沢先生にお手紙した内容は「ジャックさんの魂がホーキングさんになったのでは？」です。一方、中山みき様が大徳寺様に憑依してお話されることも私は信じています。後日知る処になりますが、ガリレオが他界した日の300年後の同じ日にホーキングさんが生まれました。その間にジャックさんが生きておられた？ また先生の前身にヨハネ様もおられると大徳寺様はお話されます。考えれば、ヨハネ、ガリレオ、ホーキング皆、牢獄や難病という困難に直面しています。芹沢先生も神シリーズを書くときは赤衣を着せられ、さながら牢獄みたいですよ。数々の奇蹟にも遭遇しました。私はアインシュタイン・立花隆や天体写真は以前から大好きです。九重に旅した宿では、ハワイ島の望遠鏡の鏡を製作される東大卒の女性天文学者と出会い、転勤先では職場のすぐ傍にアインシュタインが泊ったホテルがあり、また数キロ先には林芙美子氏の生誕地説あり等。

庭で雀が盛んに羽ばたいているので人指し指を出すと、とまり会話をしました。また先生は軽井沢に向かう時、台風をそらすように神様にお願ひしますが、実現します。当時私は通勤で10分最寄りの駅まで自転車漕ぎますが、梅雨なのに一度も雨にあわないと、ふと思いました。それで神様に「雨でもいいですよ。するとその日、職場に入ると、豪雨になり、博多駅横の九州一大きい郵便局は冠水し、地下は水浸し、一階も1mほどの水深になりました。この後とんでもない珍事が起きました。また3年前9月17日に迷走台風14号は玄界灘にありました。この時も福津に逆行して上陸し、国東に抜けるのでは？ 預言的中。通常考えられないコースです。国東は芹沢文学研究会の発会を起ち上げられた小串様が住まわれている所です。また中学同窓生に広田弘毅氏の子孫がいたことも知りました。先生が他界されて5年後に文子先生から「父の遺品を整理していたら、父が田中様の手紙を大切に持つており、思い出にお返しさせていただきます」とお返事が来ました。私が先生に差し出した手紙の差出人欄には「立派な手紙 返事を書くつもりで、実行していない」と直筆がありました。

◎冊子紹介 紙上新年会「3分間スピーチ」 芹沢文学愛読者の会 令和6(2024)年1月25日発行

愛知県や東海地域の芹沢文学愛読者の会は、恒例の新年会が中止となり、紙上新年会『3分間スピーチ』(第4集を令和6年1月25日に発行しました。目次では、「はじめに(近藤英子)」に続いて、青木秀夫氏から脇田淳子さんの52名の3分間スピーチが収録されています。「おわりに(後藤智代)」に準備委員会の方々の編集の経過が書かれています。多くの方が自筆で書いていますが、10名がパソコンで打っています。近況や芹沢文学のことなどが書かれています。新年会に参加した時に語ることが文字(文章)として残されることは、貴重なものと言えます……。

コロナ禍で中止が続いていた新年会が、「芹沢文学愛読者の集い」として、今年の6月9日(日)に実施されること。皆さんがお元気で再会されることを願っています。

★新年度になりました、今年度も年会費を1800円に据置きます。年会費未納の方は同封の払込取扱票にて納入をお願いします。同封の郵便振替にて納入をお願いいたします。

自主的な寄付も受入れます。どうぞ、よろしくお願ひします。

▽新入会員の紹介 その後の入会者は有りません。新入会員をお誘ひ下さい。◆◆◆

…………… ☆編集後記 ☆…………… 編集責任 小串信正 ……………

芹沢文学研究会の会報第129号(番号)と同封資料をお届けいたします。

芹沢光治良先生が、平成5(1993)年3月23日に御逝去されて、30年が過ぎました。年月の流れは川の流れのように、止まることは無く、過ぎて行きます。芹沢文学の愛読者も高齢化して、段々と亡くなられています。全国各地の芹沢文学の友の会・研究会、愛好会・読書会等の会員も少なくなり、やむを得ず閉会することもあるようになっていきます。何とか継続して行きたいものです……。

東京の芹沢家は、芹沢光治良記念文化財団となり、中野区の中野東図書館には芹沢光治良展示室が出来ました。生育の地沼津市我入道には、沼津市芹沢光治良記念館があり保存や展示が継続されています。東京や沼津には愛好会があり、愛知県には愛読者の会があります。岡山に読書会、川越に愛読者の集い、札幌にも読書会が続けられています。大分にも芹沢文学・大分友の会読書会と全国的な芹沢文学研究会があります。今後、全国各地に芹沢文学の友の会や読書会が始められることを期待します。

大きな問題は、作家芹沢光治良と芹沢文学への評価が余りに低いことです。結核闘病から文壇的な交流が少なく孤高の作家と言えますが、ペンクラブの会長をし、日本文芸家協会の理事もしましたが、日本文学史に正しく高く評価されていません。今後は、本格的な芹沢文学の研究がされ、作家芹沢光治良への評価をして行かねばなりません。全集出版は無理でも、作品集や書誌が刊行されるべきです……。

冊子の表紙